

CASBEE® 新築[簡易版]

評価結果

使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2010年版 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.6)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	府営住宅横島団地(仮称)		階数	地上6F
建設地	京都府宇治市横島大川原		構造	RC造
用途地域	準工業地域、準防火地域、第4種高		平均居住人員	346 人
気候区分	地域区分		年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集会所、病院、集合住宅、		評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年2月	0.0	評価の実施日	2012年12月15日
敷地面積	10,141 m ²		作成者	株式会社三宅建築事務所
建築面積	3,112 m ²		確認日	2012年12月15日
延床面積	10,735 m ²		確認者	長友



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
 30%: 建設 60%: 修繕・更新・解体 80%: 運用 100%: オフサイト 100%超: オフサイト

参照値: 100%
 建築物の取組み: 76%
 上記+ 以外の: 76%
 上記+: 76%

(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.1

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 2.7

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.4

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.0

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.1

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.5

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項	総合	その他
「ニーズの変化に対応できる柔軟性」と「行政と地域住民の協働によるまちづくり」の要素を盛り込んだ「未来志向型」の新しい府営住宅の在り方を目指す。基本方針として、交流の場「地域のテラス」を設け、地域や保育園との一体利用を図る。福祉施設を併設し、団地コミュニティと一体的に運用する。集会所、福祉施設を交流の場とフラットに繋ぐことにより交流と相互利用を図る。「花と木と実の広場」で子供たちが遊び、集うしかけ	多世代交流広場を団地中央に配置し、花や実をつける樹種や紅葉する植栽を設け、住民・保育園など地域の人々同士の交流促進を図る。広場の一部に福祉施設利用者用の菜園スペースを設け、住民・地域との交流や自主活動	
Q1 室内環境 境界、界壁、開口部に住居としての遮音性能を十分満足する品質を確保する。住戸内の戸はすべて引き戸とし、指詰め防止を図る。想定家具を含め、キッチン動線を考慮したレイアウトとする。可能な限りUBに窓を設	Q2 サービス性能 共用廊下から玄関、玄関から住戸内廊下の段差は20以下に抑える。適所に手摺を設置するなど、高齢者にも配慮し、品確法による「高齢者等配慮対策等級」の専用部分、共用部分でそれぞれ等級3、等級4を確保する。長寿	Q3 室外環境(敷地内) 敷地内の歩車分離を図る。駐車場を利用した雨水貯留を実施し、集中豪雨時の下水道負荷を軽減する。又、保水透水性舗装材を使用し、ヒートアイランド現象の緩和を図る。隣地境界沿いには視認性の高いメッシュフェンス
LR1 エネルギー 福祉施設の居室開口部にはLow-Eガラスを使用したペアガラス断熱サッシを採用し、空調負荷を低減する。屋上に太陽光発電パネルを設置し、自然エネルギーの有効利用を図る。	LR2 資源・マテリアル 府営住宅住戸内の間仕切り、集会所の腰壁、ウッドデッキに地産産材を使用し、地産地消に努める。延床面積あたりの木材使用量は3m ³ /100m ² 以上かつ木材使用量に占める京都府内産木材の割合50%以上とする。	LR3 敷地外環境 道路境界側には季節感の出る樹種の植栽を設け、良好なまちなみ形成に寄与する。道路側の階数を抑えることにより、圧迫感の軽減に配慮する。安全性へ配慮し、西側道路側に敷地内歩道を設ける。電気室・ゴミ置場等は道路から見えにくい位置に配置し、受水樋周囲には目隠

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される